

「誰もが 1人でも暮らしやすい まちづくり」

SDGs 17の目標から



障がい福祉事業者 代表
介護福祉士
熊谷公成



暮らしづらいと感じる要因とは？

通勤風景（Aさん）



通勤風景（Bさん）



この2人の日常生活において **差** が存在 →

アクセシビリティ

格差
（時間・労力）



社会的障壁



認知症予防 個のネットワーク

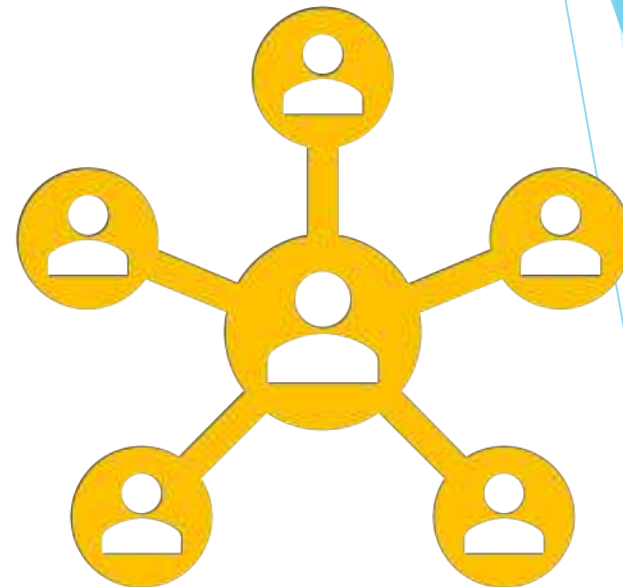
「お母さん

この頃 物忘れ

多くなってきてるかなあ...」



...



『今度、物忘れとか
認知症とかのお

そんなお医者さんとこ
行ってみよ...」



- ▶ では、このケースを
- ▶ 面から分析し
対策しよう。



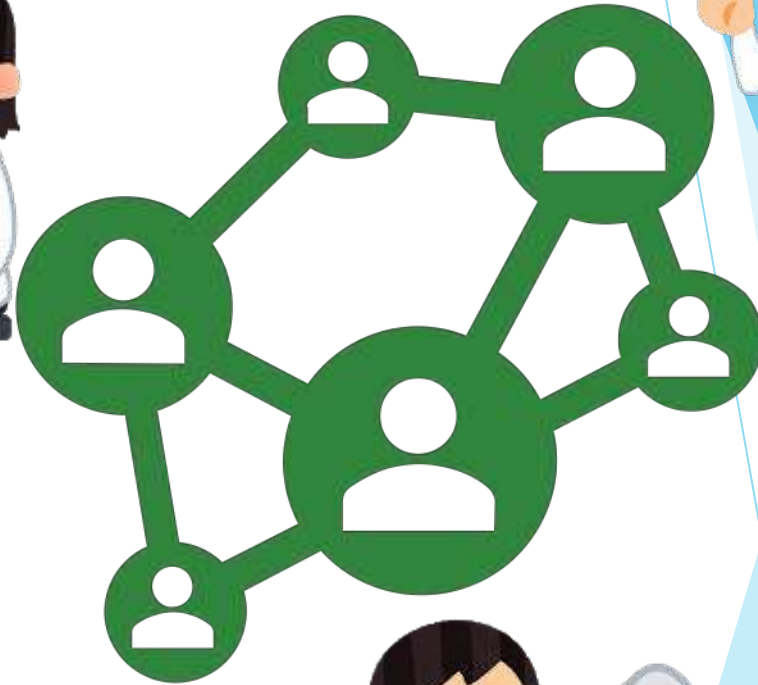
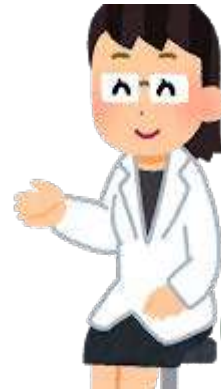
認知症予防 面のネットワーク

まず一言目は・・・

『お母さん、今年
何歳になるんだっけ？』

Price
Down!

『なら、行ってみようかな？』



次のフェーズ

地域住民
友人・ご近所

『娘の勧めでね、
・・・』



行政



事業者
医療・福祉
飲食・小売・製造



町内会 (連合町会)
民生委員
防火防犯



社会福祉協議会
地域包括支援センター
区在・地在



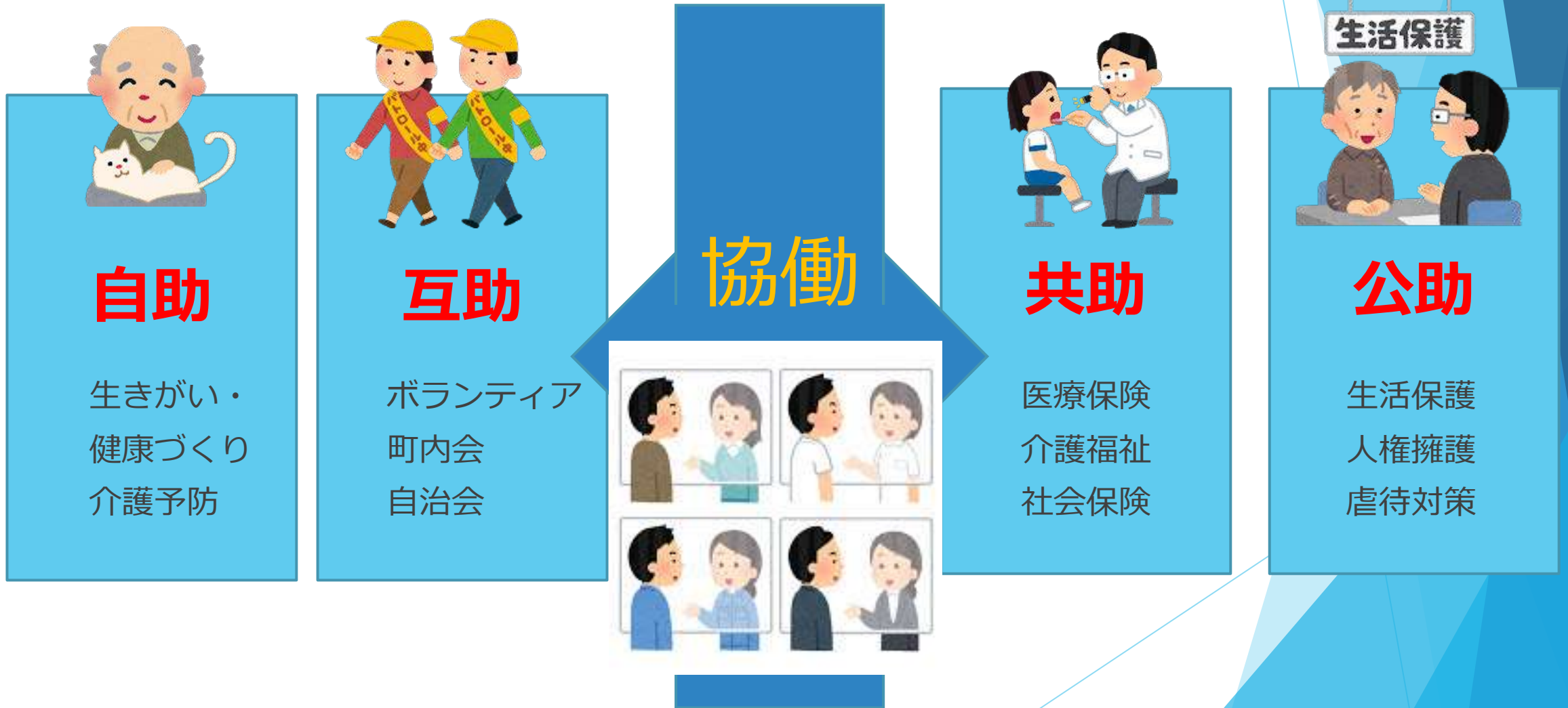
いくつかの働きが結びれて
『社会的障壁』を越える力になっていく

合理的
配慮



現行の制度上で



『合理的配慮』を考えてみると



それに必要なのは
ちょっぴりお節介なリボンさん？



事例

ケース	社会的障壁となる要因	合理的配慮
<p>定年退職後の シニア男性 ～介護認定を 受けるまで</p> 	<p>社会性の欠如 所得落差（年金生活） 生きがい創出の難しさ</p>	<p>調理教室 杵柄学校 みまもり交通指導</p>
<p>産後間もない母親 初産から託児・ 職場復帰まで</p> 	<p>社会的孤立 独身時コミュニティから 所得格差（一人親家庭）</p>	<p>母親教室 育児ネットワーク 就労支援 教育・資格支援</p>

【仕組み】をつくる

- ・民生委員との連携
- ・オンライン予防講座

▶これから“一人”になっても
大丈夫に



社会資源の連携

それを結ぶ **リボン**🎀 は住民の**一歩**